

# 編集手帳



2024 年、COVID-19 パンデミックから 4 年が経過した。現在も感染者は出ているが以前のようにマスメディアに取り上げられることも少なくなり、普通の風邪に近づいている印象である。COVID-19 パンデミック、通称コロナ禍を振り返ってみて、社会のスタイルが大きく変化したと思う。医療従事者にとって常にマスクをつける習慣は今も続いており(恐らくなくならないと思う)、リモート会議やリモート講演会は一気に普及した。薬不足は現在も継続中である。そして感染症への関心の高まりとともに、さまざまな感染症の話題が聞かれるようになった。人の移動も活発になり、超円安の影響もあって日本には多数の外国人観光客が訪れるようになったが、渡航者による持ち込み感染として麻疹が流行していることは最近のトピックでもある。

話は少し遡るが、コロナ禍の最中に梅毒の流行がニュースで取り上げられるようになった。コメンテーターの専門家によるとコロナ禍で性生活のスタイルが変化したことにより流行したとのことであったが、正直ピンとこなかったのを覚えている。しかしながら梅毒感染、先天梅毒の数は現在も増加し続けており、社会問題になりつつある。私は勤務先の病院で感染対策委員を務めているが、毎月の定例会議で梅毒の発生報告がコンスタントに出ており、身近な感染症になった感覚がある。感染症対策の基本は感染拡大をいかに抑制するかに尽きるが、性感染症の場合それが一筋縄ではいかない。日本人にとって性生活の話はタブーが多く、気恥ずかしさもありひた隠しにする傾向がある。それが感染者の診断が遅れる所以となり、感染が水面下で拡大することにつながる。早期診断・早期治療が大切なのだが、なかなかうまくいかない厄介さがある。本特集では性感染症をタブーなく切り込んでいるので、日常診療の参考となれば幸いである。

牧 尚孝

臨床雑誌 内科 第 134 巻 1 号(第 805 冊) 2024 年 7 月 1 日発行

監 修：杉本恒明 黒川 清 矢崎義雄 木村 哲 小俣政男 宮坂信之 永井良三  
編集委員会：神田善伸(委員長) 立石知也 牧 尚孝 岡本 耕 辻本哲郎  
編集兼発行者：東京都文京区本郷三丁目 42 番 6 号 小立健太  
印 刷 所：東京都江東区亀戸七丁目 2 番 12 号 三報社印刷株式会社  
装 丁：渡邊真介

発 行 所  
株式会社 南江堂

〒113-8410 東京都文京区本郷三丁目 42 番 6 号  
出版(「内科」編集室直通) Tel：03-3811-9984 Fax：03-3811-8660  
営業(販売 1 課/卸) Tel：03-3811-7239 Fax：03-3811-7230  
<https://www.nankodo.co.jp/>

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物の利用に関する著作権者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

**JCOPY** 出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(Tel：03-5244-5088, Fax：03-5244-5089, e-mail：info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

広告申込所 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-24-6 本郷大原ビル 6 階 株式会社文京メディカル(Tel：03-3817-8036)